

囚われた美少女捜査官
かみしろ
神代さくら
THE COMIC

第5話

成年
コミック

二次元ドリームコミックス

漫画: 助三郎

原作: 筑摩十幸

キャラクター原案: 孤裡精

CONTENTS

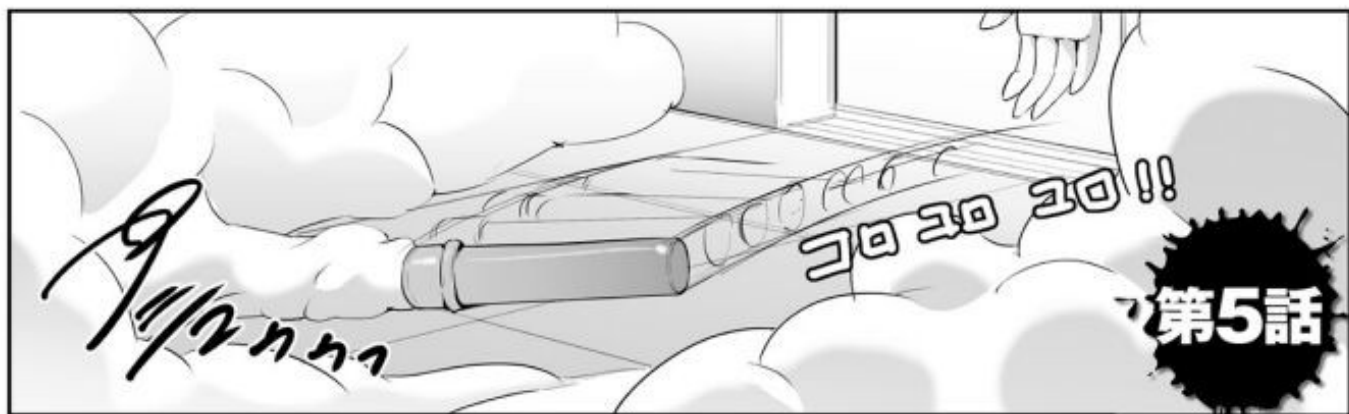
003

第5話

038

卷末特典 ifショートストーリー⑤

(小説：筑摩十幸 挿絵：助三郎)





そんなモノが
スタンガンが
俺に通用
するかよ？

これは
お前用の
特製さ









警視が外務省と折衝して
一回だけ突入許可を
とりつけているんだ

学園内にいる
邦人保護の
名目でね



今突入すれば
僕たちと判明済みの
スレイブドールたちは
保護できる

うまくいけば
徳山も「保護」の
名目で学園外に…

その連絡
ちよつと待って!!

母様が
生きていることが
わかったの!!



慶子^{けいこ}さんが
生きて…



でも居場所が不明なの
今突入されても
救助の見込みはないわ

だからお願い
突入を三週間
延ばして欲しいの

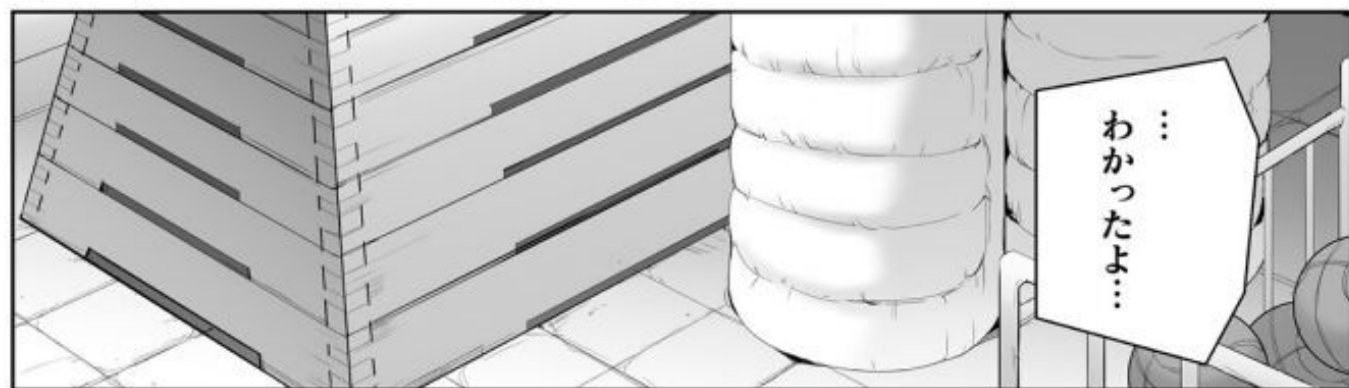


ガイから聞いたの
三週間後…

私を含めた新しい
スレイブドールの
オークションがあるって

そこには
スレイブドールの
顧客たちが集まるし

何より母様が
来ることに
なっているわ









ああ…
シンの精液
とっても熱い♥

でももっと
もっと
欲しいのぉ♥





すぐに大きくして
あげるからねシン







とくやま
徳山!?



そんなチンポ
相手じゃ
満足できんぞ?
さくらちゃん



あらあら
そんなこと言っ
ていいのかしら?



お前の
相手なんて
誰がするか!!

そんな粗チンの
相手はやめて
ワシと愉しもうぞ?



気付くのが
遅すぎたわね

裏切って
いたのか…



彼氏の命が
惜しかったら
言うことを聞いた
ほうがいいわよ？



どうじゃ
ワシのいちもつ一物
イイ形じゃろ？

欲しくて仕方
なくなるじゃろ？
おねだりして
もらおうかの



イイ子じゃ

!!?

ガッ

ズッ

お尻の穴が敏感に!?
薬液が入ってきただけで...
感じて...!!

浣腸でいくとは
だいふ感度が上がって
おるようだの

グッ!!

コレは期待が
高まるという
モノじゃ

!?

そこは…
違…!?

何も間違って
おらんよ

グッ!!
グッ!!
グッ!!

さくらちゃん
の
アナル処女
頂くぞい!!

オッ!!
オッ!!
オッ!!

ミッ!!
ミッ!!
ミッ!!

グッ!!
グッ!!
グッ!!

尻穴処女とは思えぬほどの
熱れっぷりじやな

ズン♡

ズン♡

魔薬の所為？
私のお尻の穴
オマンコみたいにな
ってるぅ!!

さくらちゃんも
気持ちいい
じやろ？

う…くう！
そ…そんなこと
ないいい!!

ズン♡

ズン♡

ズン♡

それにこのペニス
ガイほどじゃないけど
なんて太いのぉ…!!

ズン♡

ズン♡

カリも大きくて
真珠でゴリゴリ
されちゃうぅ!!

こんなこと…!
いくらやっても
無駄よ

でも父様の仇…
コイツにだけは
絶対イカされない!!





その耐える女を
突き崩すのが
何よりの愉悦よ

彼氏の前で
たっぷり
いき狂わせて
やるぞい

んやう



面白い
ワシはアナルの
ほうが得意でな

ククク…我慢しておる
可愛いのお



いやああ 突きながら
フリドリリスをお!



まず小手調べに
お豆虐めだぞい

おお
キyunキyun締まるわい



だめえオマンコと
お尻両方なんてえ!



ほれほれ
膣内ももう
ビチャビチャじゃ

ぐふふ膣内も腸内も
嬉しそうにうねって
おるぞ



じんののはじめてええ

壁越しに
おちんちんと
擦れ合ってるうう!



指で腸壁を
おしてやるぞ
エエじゃろ?

なんと欲張りな
アナルよ奥へ奥へと。
飲み込まれそうじゃ







さくらちゃんも
ワシのチンポに
惚れたよう
じゃのう！

ああああ♥
と父様の仇オチンポ
大好きですっ♥

あら♥ すっかり
アナルセックスの
虜ね♥

これからもっと
面白いことに
なるわよ

さっきの浣腸液
精液と混ざると
膨張する性質なの

だから…

ボコッ！







シンくんに
産むところを
しっかり見て
もらうとイイ!!



ほひい! お腹が
もうパンパンにい
出るう出ちゃっっっ!

グフフ...まるで
ワシの子どもを
孕んだようじやわい

らめええ！
許しれええ！

出ちゃうー！
かけちゃうー！

ゼンシ！

フリッ
フリッ
フリッ

ひいひいー！

いつてるうー

なんれ!? シンの前でえ

いつてるのおおお♥



おほ♥

ゼンシ!

ほい♥
ハッ
ハッ
ハッ

ゼンシ!

素晴らしいぞ
さくらちゃん!

最後の手術で
最高のスレイブドールに
仕上げてやるぞい!!

かほ!

ほい♥

ゼンシ!



三週間後：
オークション前日

ちよつと前まで
処女だったのに
すっかり淫乱ね

だって友達
の彼とするのって
興奮するじゃない？

シン君も
そうでしょ？



愉^{たの}しんでいるわね
射精はさせて
いないでしょうね？

あすみれさん
もちろんです

Booo

喜んでシン
今日は素敵な
種付け相手を
連れてきたわ

さくらの母親の
慶子さん

排卵剤も飲んで
準備万端よ♡

君覚えてるわ…
あんな子供だったのに
素敵に育ったわね

うっ
♡

三週間も
射精管理を耐えた
ご褒美をあげるわ♡

魔薬をチンポに
たっぷり注入♡

や…やめろお!!

たっぷり
射精してえ♡
娘の彼氏の
子を孕むなんて
ふふふ…♡

や…やめてください
慶子さん
さくらが知ったら悲しむ



そうね…
さくらに知られたらって
想像すると…

もう
それだけで
イっちゃいそう♡

す…凄いい
このオマンコ…!!

膣内^{なか}が常に蠢いて
吸い込まれるうう!

ぽん♡

おん♡

おん♡

おん♡

おん♡

体育倉庫での会話は
筒抜けだったのよ
で徳山様が外務省に
手を回して反故に
させちゃいました♡

ところでシン
警視から先日
返信が来たでしょ?

「救援は出せない」
って

シン君♡
さくらのママに
種付けしちやお?

!?

おん♡

おん♡



今の腰子丸は
あの時のわんぱく
そっくりだって……！



駄目なのに……
どうしても
考えてしまう……

囚われた美少女捜査官
神代さくら
THE COMIC

神代さくら

囚われた美少女捜査官

THE COMIC

if ショートストーリー⑤

著:筑摩十幸



「ヒヒヒ、神代さくらくん、久しぶりですねえ」

「あ、あなたは……中村……捜査官……どうして貴方がここに!?」

徳山に指定された売春相手の顔を見て、さくらは目を疑った。なんと相手は知り合いの捜査官だったのである。

「くっ、警察に内通者がいるというのは、本当だったのね」

彼には以前から黒い噂があり、他の女性捜査官失踪事件にも関わっていたという疑いが持たれていた。出っ歯の痩せたネズミのような表情は、彼の内面を表しているかのようだ。

「なかなか察しがいいですね、さすが有能なJK捜査官ですよ」

「どうしてこんなことを？　それでも捜査官なんですか！」

「金もありますが、こういうおこぼれを頂戴できるのでね、なあ、ほんだ本田刑事」

「人妻もイイが、やはり若い娘がたまらんですな。くくく」

中村の同僚の本田が舐めるような視線を送りつけてくる。好色そうな小太りの男で、昂奮のせいか脂ぎった顔がテラテラ輝いている。

「それにしてもしばらく見ない間にイイ身体になったもんですな」

魔薬と改造により乳房は二回り大きくなり、逆にウェストは不自然なほど細くくびれている。ヒップもムチムチに膨らんで、ミニスカートからはみ出すほどだ。髪は金

髪に、肌もファンデーションで小麦色に染められて、派手なラメ入りが目元を彩り、デコレーションされたつけ爪が指先にまで施されている。かつての凜として清楚可憐な侍女の面影はもはやない。

「母親に似て、淫乱娼婦の素質があっただじゃないですか」

「黙れ、卑怯者っ！　恥を知らない！」
瞬間的に頭に血が上り、さくらは中村の顔面にビンタを見舞った。

「ヒヒヒ、遅いですねえ。ほれ」

しかし中村は易々とそれをかわすと、反撃のパンチをさくらの鳩尾みぞおちに叩き込んだ。

「~~~~~っ！」

たったの一発で膝をつくさくら。軽いパンチのハズなのに、胃がひっくり返ってし

まいそんな衝撃で目がくらんでしまう。

「魔薬と肉体改造で弱体化された攻撃なんて当たりませんね。それに肋あはらを抜かれているから腹パンがよく効くでしょう。ヒヒヒッ」

「はあっ、はあっ……あううつ」

「ほれ挨拶しなさい。おらっ、土下座して詫びるんですよ」

「くっ……誰が貴方なんか……」

「んん？ 母親や彼氏がどうなってもいいんですかねえ」

「うう……」

人質のことを言われ、さくらは唇を噛む。

元々選択権などないのだ。男たちの足下に土下座し、血を吐く思いで屈辱台詞を口にする。

「う、ううつ……中村様、本田様……生意気を言って申し訳ありませんでした……本日はドスケベビッチJKさくらの身体をお買い上げくださり……あ、ありがとうございます……精一杯オチンポ様にご奉仕しますので……よろしく願います……」

口上を述べるさくらの目尻に悔し涙が浮かぶ。こんなザコのような男にすら勝てない自分が情けなくて、惨めだった。

「今の姿はバッチリ撮っていますからね。捜査官モノは裏AVとしてよく売れるんですよ」

「そ、そんな……AVなんて……」

この惨め姿を記録され、それを売られてしまうなんて、死にも勝る屈辱だった。

「フッフ、中村さん。続きはベッドでやり

ましよう。フフフ」

本田の目が鋭く光り、さくらはゾツと寒気を覚えた。

円形ベッドの上に大の字に拘束されたさくらに淫獣たちが群がっている。

「前はBカップほどだったのに今ではJカップはありそうですね。スリーサイズを教えてくださいよ。ヒヒヒ」

馬乗りになった中村が乳房の間に勃起を挟み込み、パイズリを堪能しながらニヤニヤ嗤う。

「ああ……上から……一〇四、五〇、九八……です……」

百センチを超える爆乳が、ムニムニユと自在に変形し牡肉棒を包み込む様は、淫

らな牝性の開花の象徴と言えるだろうか。乳首のチェーンピアスがキラキラ煌めくのも艶めかしい。

「ムチムチの身体でパイパンとは、おじさんの好みだよ、さくらちゃん」

「は、はい。オマンコがよく見えるように……永久脱毛しました……あうう」

股間に陣取った本田がヒョウ柄パンティの上からバイブを押し当てて秘園を蹴ってくる。永久脱毛されてしまったワレメは童女のような愛らしさで、巨根黒人と同棲生活で開発された媚粘膜とアンバランスな色気を醸し出していた。

「はあはあ……ああう……も、もう……やめ……ああうん」

淫棒に擦り上げられる乳房はピンク色に

染まって火照り、頂点の乳首はブラを突き破らんばかりに勃起している。媚肉もしとどに濡れて、湧き出る愛液はシーツに染みを作るほどだ。

「ヒヒヒ、そろそろ欲しくなってきたんじゃないかな」

「そ、そんなこと……っ……ハアハア……」
弱々しく首を横に振る。責め続けられて一時間、全身が火がついたように熱く燃え、肌という肌が噴き出た汗でぬらぬらと輝いている。だが男たちはさくらをイカせることはなく、寸止めで焦らし続けた。

（このままじゃ、頭がおかしくなっちゃう……ッ）

ガイとの魔薬セックスで味わわされた数え切れない絶頂体験が、桃色に蕩けた脳裏

に蘇る。さらに魔薬の禁断症状が肉欲の炎に油を注ぐ。今や少女捜査官の中では、魔薬への渴望と性欲とは強烈に結びついていたのだ。

「いつまで堪えられますかね、ヒヒヒ」

薄ら嗤った中村が、肉勃起にローションを塗りつけていく。それはさくらを散々苦しめた魔薬に違いなかった。

「ハアハア……そ、それは……あああ……」
目と鼻の先で魔薬にまみれた淫棒が前後に蠢いている。だがギリギリまで近づきながらも、決して唇に届くことはない。牡汁と魔薬の混ざった甘美な匂いに鼻腔をくすぐられ、さくらの口腔内にじゅわっと甘い唾液が湧く。乳房もこね回されているが、敏感な乳首はほとんど手つかずの状態だ。

そしてそれは股間も同じで、魔薬を塗ったバイブは太腿の付け根や恥丘の上を撫で、クリトリス周辺を円を描くように這い回りながらも、女の中心部には触れてこないのだ。

（ああ……ホシイ……モット……）

男根を口いっぱい頬張りたい、秘奥を思い切り掻き混ぜられたい……そんな狂った願望が今にも口から溢れそうになる。

（ダメ、そんなこと考えては……コイツらは裏切り者なのよ……ッ）

淫らな欲望を振り払うかのように、さくらは慌てて首を左右に振りたくった。

「辛そうですね。素直になって、パパのオチンポちようだいと一言言え^{ひと言}ばいいんですよ」

「はあっ、はああ……し、死んでもイヤよ……あああ」

禁断症状に神経と精神を蝕まれながらも、必死に堪え続ける。驚異的な精神力には中村も驚くほどだ。

「まあいい、時間はありますからね。じっくり焦らしてあげますよ」

「そんな……もうやめて……ああむっ」

さくらは汗まみれの身体を振って絶望的な悲鳴を上げた。

それからさらに一時間、残酷で無情な焦らし責めは続いた。

「はあ……はあ……ああう……もう、やめて……あああう」

氣息奄々^{きそくえんえん}の体^{てい}で喘ぐ少女捜査官。嘔き出

した汗で小麦色の肌がヌラヌラと照り輝き、
いつそう男たちの劣情をそそる。

「頑張るねえ、仕方がない。最後の手段だ、
本田くん」

「待ってましたよ。グフフ」

本田が手にしたのは小型の浣腸器だ。容量は100CCほどだが、中に入っているのはかつてさくらを狂わせた強力な魔薬液だ。

「ひっ！ そ、それだけはいや、いやあっ」

どれだけ犯されてもなかなか屈しないさくらだが、この魔薬浣腸にだけは弱かった。魂まで溶かされ、排出されて、逆らう意思が根こそぎ奪われてしまうのだ。逃れようとするのだが身体は思うように動かせず、四つん這いの体勢をとらされた。

「ほおれ、魔薬のお浣腸だよ、さくらちゃん」

痙攣^{けいれん}する菊門の中心をガラスの細管がこ

じ開ける。阻止しようと必死に括約筋を締めつけるがなんの役にも立たず、次の瞬間にはチュルチュルと冷たい液体が浸入してきた。

「うああ……あああ……いやあ……あああ
~~~~~っ！」

冷たさはすぐに熱蠟のような灼熱感となつて腸管を一気に灼<sup>や</sup>き焦<sup>こ</sup>がす。おぞましさに総毛立つものの、それが狂おしい魔悦を呼ぶことを知っているだけに、なおさら恐ろしい。

「こっちにもあげよう、さくらくん」

中村に唇を奪われ、脂臭<sup>やにくさ</sup>い唾液と共に魔薬カプセルが送り込まれてくる。

「ひやめ……んんん……っ！」

反射的に呑み込んでしまい、衝撃的なほどの快楽のハンマーが脳天を直撃、ぐらつと天地がひっくり返る。

「ひっ、ひいいっ！　だめっ！　ああああ……だめえ……っ！」

一瞬にして肉という肉が燃え上がり、沸騰する血流が全身を駆け巡った。魔薬とペニスへの渴望は弱まるどころか爆発的に膨れ上がり、自我を内側から突き破る。瀕死の虫のようにガクガクと全身を痙攣させ、白目を剥いた美貌が首が折れんばかりに仰<sup>ぞ</sup>け反<sup>そ</sup>っていく。

「くくく、効くねえ。ほら、欲しいんでしよう？」

「あ、ああ……」

ルージユの唇に亀頭を擦りつけられ、ついに何かがさくらの中で切れる。これ以上ガマンすれば人格が崩壊して狂ってしまうだろう。いや、狂ったほうが楽かもしれない……。

「はあはあ……ほ、ほしい……あああ……ほしいです……」

「何が欲しいのか、はっきり言うんですよ」  
「あうう……オ、オチンポ……あああ……中村様のビンビンに勃起した……ぶつといオチンポが……欲しいんです……あああ……ン」

息も絶え絶えに告白させられ、死にたいほどの恥辱に耳まで真っ赤になる。本音なのか強要されたモノなのか、自分でもわからなくなっていく。

「ククク。台詞が硬いが、まあいいでしょう。ほれえ」

魔薬まみれの肉棒をズブリと唇にねじ込む悪徳捜査官。グロスで濡れた唇が発情期の陰唇のように拡がった。

「んおおお……オヒンポ……じゅばあ……いけないのに……ああおおおっ」

口中に拡がる牡の匂いと味が理性を麻痺させ、少女をさらなるマゾの迷宮へと誘<sup>いざな</sup>う。改造された口腔内の突起もクリトリス並の快樂ポイントとなって追い打ちをかけてくるのだ。

「んああっ！ イクツ……イグウツ！」

ギクンと仰け反り、激しい痙攣が四肢に駆け巡る。明らかに絶頂の反応だ。

「ヒヒヒ、口だけでイクとはなんて敏感な

身体なんだ」

「こいつはスゴイ。おじさんも張り切っちゃうよ、それっ」

本田が剛棒を押し当ててきたのはアヌスだった。

「あひゃあ……そこはあ……お尻はらめえ」

微かに抵抗するものの、浣腸で蕩けた肛門粘膜は抵抗を忘れたように男根を迎え入れていく。ひりつくような拡張感に呻<sup>うめ</sup>きながらも、同時に甘い喘ぎも漏れてしまう。

「ダメと言いながら、美味しそうにくわえ込むじゃないか。よく調教されているみたいだねえ。ほれほれ、気持ちいいだろう」

根元までねじ込むと、ムチムチのヒップと男の腹とがピタリと密着する。

「ひいああ……ああ……イイ……あああ  
……お尻、気持ち……イイ……あああむ……  
……イクウ……ッ！」

挿入されただけで肛門アクメに追い込まれ、クネクネとお尻を振って悦楽の表情を浮かべるさくら。肛悦に溶けた表情には、ケバケバしいギャルメイクも似合ってくる。  
「もういったのかい？　なんていやらしい尻の穴だ。きゅうきゅう締めつけて、食いちぎられそうだよ……真珠まで埋め込まれて、並のマンコ以上だ、ハアハア。もっとビッチっぽくヨガってごらん、こんな風に」  
ズンズンと背後から抽送されるたび、重そうに垂れ下がった爆乳がタプタプ揺れ、黒人の性奴隷に堕ちた証<sup>あかし</sup>のタトウシールをカメラにアピールする。

「あうう、本田パパのオチンポでパコられてえ……アナルやばいのおっ」

真珠を埋め込まれた肛門粘膜は性器に勝るとも劣らない名器となつて、悪徳刑事の剛棒に絡みついていく。きつく締めつけたかと思えばふっと緩んで、奥へ奥へと引きずり込んでいくような蠢きを見せた。

「抜菌されたお口もバキュームがすごいねえ。金玉まで吸い取られそうだ」

「じゅばじゅば……ぷはあ……中村パパのデカチンポ、チンカスもおいしすぎ……ちゅばちゅば……また……きちやう……イッチやう……ッ！」

続けざまのエクスタシーの波に襲われ、四つん這いを維持できなくなったさくらはドツとベッドに突っ伏した。それでも男た

ちの責めは止まらない。

「アナルはこのほうがやりやすいんだよね、グフフ。ウンチの穴で狂わせてあげるよ」

そのまま寝バックで本田がピストンを叩き込む。ドスンドスンと体重を乗せたプレス突きが撃ち込まれるたび、ベッドが軋<sup>き</sup>んで反動で腰が浮き上がる。それを叩き落とすように次の杭打ちがぶち込まれるのだ。

「ああお……本田パパあ、深い……ンあああ……イクイクイクッ！ ケツ穴最高なのッ！ うんち穴で……さくら狂っちゃうっ！」

絶頂から降りられなくなったさくらは、ルーズソックスの脚をがに股に開き、ヘコヘコと媚尻を振り立てて、男と息を合わせた腰振りダンスを舞踊り始める。ラメのデ

コネイルがシーツを何度も引っ掻いた。

「おらおら、口でもイケ、性処理便女っ！」  
中村が金髪をつかみ、ハードイラマで喉奥を突き上げる。ガツンガツンと突かれるたび、ペニスで金髪ポニーの後頭部まで串刺しにされているような錯覚に襲われ、それがさらにマゾ性を燃え上がらせた。

「ンああおっ！ お口イグッ……んぐうっ……アナルもヒイグウッ……ンああお」

舌の上を、頬の内側を、食道をカリで擦られるたび異様な快感が沸き起こり、目の前で火花が散る。アナルへの杭打ちプレスを受けるたび、魂が削られ、もうどうなってもいいという捨て鉢な気持ちになる。自分はまだ性処理のためだけに生きるスレイブドールにされてしまったのではないかと

いう気がしてきた。

(うああ……でもお……)

気も狂いそうな連続アクメの猛炎に焼かれながらも、満たされない部分がある。女の秘肉だけがまだ一度も手を触れられていないのだ。

(ああ……あそこにも……ホシイ……)

焦れつたさを表すように蜜穴がヒクヒク戦慄<sup>わなな</sup>き、濃厚な本気汁をドロリと溢れ出させた。飢えた食虫花のような妖しい蠢きを、男たちが見逃すはずがない。

「ヒヒヒ、どうしたんだい、さくらくん」

二人は一旦責めを中止し、さくらの身体から離れた。

「ハアハア……ああ……はああ……ん」

「まだまだ満足できないという顔だねえ」

金髪ポニーをつかんで顔を持ち上げると、媚びに潤んだ瞳が中村を見つめた。油膜が張ったように澱んだ瞳孔に、いつもの理知的な光は見えない。

「はあ、はああ……パパあ、もっと欲しい……オ、オマンコにも……いやらしいこと、して欲しいのお……ああ……んっ」

「ヒヒヒ、もおっと下品におねだりするんだ」

「ああ、おねがいだからあ……パパのチンポ入れてえ……おクスリチンポで……さくらのお便女マンコに、パコパコしてえ」

我を忘れたように腰を振り、頭の悪い浅ましいおねだりを始める少女捜査官。もはや自分で自分の身体を制御できないのだ。

「ヒヒヒ、まったくスケベでビッチなさく

らくんだ」

二人の裏切り者は顔を見合わせて嗤った。ここまで追い込めば、もう勝ったも同然。どんな命令にも従うだろう。堕ちた女の肉体とはそういうモノだ。

「ほら、これを使うんですよ」

中村が差し出したのは見たことがないような巨大な張り形だった。

「っ!? そんなモノで……」

直径は十センチ近いだろうか。螺旋状の突起が何段にも並ぶ様は掘削機のように、一瞬さくらの表情が恐怖に強<sup>こわ</sup>ばる。

「これは子宮にまで届いて、さくらくんの子宮を精液便所のオナホに改造してくれるんです。先輩の堇<sup>すみれ</sup>くんのようにね、ヒヒヒ」  
ネチネチと囁きながら、今度は中村が背

後から肛門に男根を突き立ててくる。

「ンああ……子宮を……オナホになんて……いや……ああ~~~~ンっ」

女の命とも言える神聖な生殖器を性処理用淫具に改造されてしまう。血が凍るようなおぞましいことを囁かれているというのに、身体はさらに燃え上がり、アヌスも中村の男根を素直に呑み込んでいく。

「嬉しいでしょう? ほれ、中にはさくらくんが大好きなおクスリが入っていますよ。絶頂すれば噴き出す仕組みです」

「はあはあ……おクスリが……中に……」

恐怖を感じながらもそれを上回る淫欲がさくらを支配する。被虐の昂奮に染まった表情はビッチなメイクと一体化して淫蕩さ

を露わにし、唇をペロリと舌舐めずりする。  
「おクスリチンポ、ふっとおい……デカすぎるう……ああ、きつい……あああゝゝむ♡」

メリメリと音がしそうな迫力で、身に余る巨根バイブが沈み込んでいく。拡張される粘膜がギリギリまで伸びきるが、出血や裂傷は見られない。それどころか<sup>おびただ</sup>夥しい愛液を湧かせて、巨大淫具を呑み込むような蠢きすら見せるのだ。

「ドリルチンポが気に入りましたか？ 変態マゾのさくらくん」

背後から耳たぶを甘噛みしながら中村が肛虐ピストンを撃ち込んでくる。休む間もなく責め立てて、さくらが理性を回復させる隙を与えない。徹底的に責めて、本物の

ビッチに墮落させるつもりなのだ。

「うああん……さくらは……マゾの変態だからあ……ヤバイくらい感じるの……ああ、ドリルチンポ、中でこすれて……ンああ……超キモチイッ」

グッと腰が突き出され、バイブの先端が最奥の子宮口に達した。クンツとおとがいを突き上げて、さくらは被虐の快美に身を震わせる。

「いやらしい娘だ。亡くなったお父さんに申し訳ないと思わないのかね」

「ンおおお……父様……あごお……ごめんなさい……仇も討てなくて……淫乱な……ああ……変態娘に育ってごめんなさい……ああお……イグウツ！」

泣きたいほど悔しいのに、魔薬に狂わさ

れ男たちから求められるままに、卑猥な台詞を紡いでしまう。そんな惨めさまでもが虐待へとすり替わる。

「ヒヒヒ、素直になつたさくらくんにご褒美をあげよう」

中村がリモコンを操作すると、

ギョルルッ！ ギョルルッ！ ヴイイイ  
イインッ！

巨大な淫具が振動しながらゆっくり回転を始めたではないか。

「ンああゝゝゝゝゝゝゝっ！ らめえっ！ これヤバイのおおっ！」

螺旋状の突起のせいで、張り形がドリルのように潜り込んでいくように見える。いや、それは錯覚ではなかった。事実１ミリずつ、ゆっくりだが着実に巨大淫具は少女

捜査官の胎内へと侵入していくのだ。

「おおおっ……あんなデカマラが……少しずつ入っていくじゃないか」

「ヒッ、ヒイツ、アヒイイツ！ ドリルチンポが入ってクルうつ！ うあああ……深すぎるのに……オマンコヒクヒク、止まらない、ああんっ！」

丸太の杭を突っ込まれるような衝撃に、金髪を振り乱して身悶えるさくら。串刺しに貫かれ、口から飛び出すのではないかという恐怖に襲われる。

「ヒヒヒ、どうだいさくらくん、子宮をこじ開けられる気分は」

中村が残忍な笑みを浮かべた。先端から筋肉弛緩効果のある魔薬をピュッピュッと吐き出しながら、亀頭部が子宮口にはまり

込み、くつろげていく。普通なら激痛を感じるだろうが、魔薬調教を受けたさくらの身体は、それさえも快感に感じてしまうのだ。

「あ、ああ……いやあん……ドリルチンポ入ってくるう……子宮の中にい……こんな、こんなヤバイ、やばすぎ……ンあああゝゝゝゝっ」

子宮までも性感帯に造り変えられる恐怖に怯えながらも、淫具をくわえ込む媚肉はトロトロに濡れて、結合部からは熱い蜜が滴り落ちてくる。子宮からも愛液が滲みだしてバイブを迎え入れるような動きを見せる。

「そのままもっと奥まで入れなさい、子宮でくわえ込むんですよ」

「ああああ……手が、腰が動いちゃう……ああ……こんなダメなのに……めっちゃ、キモチイイんですけど……ンああああっ」

知能まで下がってしまったかのように、淫語を振り撒き始めるビッチ化捜査官。中村に命じられるままに身体が勝手に動き、淫杭の底を押さえる手指に力がこもり、M字開脚の股間がぐんつと突き出される！

「ンあああ、チンポ、子宮にキタア♡♡あきやあああああんっ♡♡」

ほんとほし  
迸る快樂絶叫。その直後、ジュブンツと音がしてバイブが根元まで埋め込まれた。巨根淫具が子宮内に達したのである。

「やった、全部入ったぞ！」

「はあはあ……ンあ、あああ……はひい

……イクっ……あはああ……イクウウウ  
~~~~~っ！」

本田が驚きの声を上げる前で、ギクンと
白目を剥いて仰け反るさくら。口元から舌
がはみ出し、よだれが垂れ落ちる。あまり
のすさまじさに失神してしまったのだろう。

「おやおや、気を失ったかな。でも休ませ
ませんよ」

リモコンを操作し、バイブの振動を最大
にセットする。

ギュイイイイ~~~~ンッ！ ピュルル
ルウウウツッ！

「あひいいいんっ!? なに……お腹の中
で……動いて……はひいいっ!? 何か出て
る……ドピュドピュしてるう……あああ、
熱いいいっ」

神聖な生殖器に食い込む強烈な淫振動が、
さくらを強制的に目覚めさせた。

亀頭が胎内でクネクネと踊り、濃厚な魔
薬を射精のように吐き出す。女の最大の急
所を犯す、悪魔のような責めだ。

「子宮が感じるだろう？ ヒヒヒ」

嘲笑いながら肛門をグイグイと突き上げ
る。自分より有能な女性捜査官をビッチで
頭の悪い娼婦に墮とし、ヒイヒイ啼^なかせる
のは、中村にとって最高の喜びなのだ。

「ああ……しゅごすぎい、バカになりゆ
……わたし……子宮で感じちゃってるうっ
……イクイクッ！ 子宮でイクウウツッ！」

牝の官能を直撃する子宮責めに、登り詰
めたまま降りられなくなり、さくらが続け
ざまに絶頂痙攣を繰り返した。子宮も卵管

も卵巣も、すべてが魔薬と肉悦に蕩けてしまふ。

「子宮でもイっちゃったねえ。フッフ、もう元彼との普通のセックスじゃ絶対満足できないよ」

本田も剛棒を紅唇にねじ込んで、さらなる淫獄へとさくらを追いつめ込む。

「んむぐう……オチンポ美味しい……ああ……お口マンコも……ヤバイ……ああ、気持ちイイのがとまんやい……口マンコ、イっちゃうう！」

「私のことも忘れないでくださいよ。おらおら、ケツ穴レイプで感じろ」

「あああ、ごめんなひやい……中村パパのデカチンポも最高……ケツマンコも……メチャクチャきもちいいのお……あああ、イ

クウツ！ アナル、レイプされてイキますう！ あ、ああ、ああああんっ♡」

三つの穴から流れ込む快楽電流が神経をショートさせ、脳を焼き焦がす。ここがどこで相手が誰なのかすらわからなくなって、肉欲の渦に呑み込まれていく。身も心もドロドロに溶かされて、淫らな変態JKにされてしまったような気がした。

「もうらめえ、れんぶ、感じちゃう……はあはあん……レイプ好き、ヤクキメセックス大好き……もっと……ああむ、もっとオマンコ挟ってえ……ドロドロのザーメン、注ぎ込んで……ああ、さくらはパパ活オチンポ奴隷になりますう……ああん、うふうううんっ！」

ルーズソックスの脚に痙攣を走らせ、褐

色の肌を又メ光らせ、金髪ポニーを振り乱す。過剰に豊胸された巨乳がタプタプと弾むたび、ピアスが煌めき光る。焦点を失った瞳が寄り目がちになり、唇には壊れかけの笑みが浮かんだ。それは今までさくらが見せたことのない、淫蕩な媚牝の表情だった。

「さくらちゃんにそんな顔されたら、おじさんたまらないよ、そりゃあー！」

ビュルルッ！ ドバドバドバアッ！

凜々しく強気な少女捜査官を淫牝に墮とした昂奮が射精中枢を刺激し、本田は濃厚な白濁液を顔面に浴びせかけた。

「んはああっ！　すごい、ザーメン、いっぱい……多すぎいいッ」

ベツトリと張りついた牡精液が、まぶた瞼を覆

い、鼻梁を流れ落ち、唇まで穢していく。

「フヒヒイッ！　最近の若い子はけしからんな、おりゃああッ！」

ドビュドビュッ！　ドクドクドクッ！

直腸のきつい収斂しゅうれんが痺れるような極上の愉悦を呼ぶ。輸精管が焼けるような心地よさに包まれながら、中村も獣欲を解き放つ。同時に子宮に埋め込まれたバイブからも、魔薬が噴き出した。

「おひいっっ♡　同時になんてえ……あ

ああ、熱すぎる……ンああああ……気持ちよすぎて壊れりゅうっ！　頭もオマンコもバカになって、死んじゃうっっ！」

二本の火柱がさくらの身体を貫き、真っ赤に燃えながら内側から焼き尽くす。網膜に火花が散って、意識は夢幻の白い闇に吞



み込まれていった。

「ヒイッ！ イグッ！ イグウッ！ イ
っちやうう~~~~ッ！」

プシャアアアアッ！

金髪を振り乱し、ビクンビクンと四肢を
痙攣させながら盛大に潮を噴く。白目を剥
いて仰け反る美貌に捜査官の凜々しさは欠
片もなく、代わりに男たちを魅了する淫魔
のような笑みが浮かんでいた。

「あ、あああ……ドリルチンポイイ……あ
ううう……イイのが……どどん、くりゅ
……あああ、やっぱあ……またイクう……
子宮もマンコもガバガバにされてえ、イク
のとまんない……あへあああ♡♡」

男たちが離れた後も、さくらはベッドの
上で子宮バイブをぶち込まれたまま、汗ま

みれの牝腰をへこへこくねらせ、ふ~~~~
ふ~~~~と鼻息荒く無様な子宮アクメを繰
り返していた。爆乳が母乳を滴らせ、巨尻
もムンムンと牝臭を振り撒く。もはや絶頂
感がずっと持続し、止まらなくなっている
のだ。

「子宮でいきまくりとは、身体はスレイブ
ドールになりきったようですねあ」

「心まで堕ちるのも時間の問題でしょうね
え。ヒヒヒ、完成が楽しみですよ、神代さ
くらくん」

裏切り者たちは邪悪な期待を込めた黒い
笑みを浮かべるのだった。

END

二次元ドリームコミックス

囚われた美少女捜査官 神代さくら THE COMIC

【第5話】

漫画
助三郎

原作
筑摩十幸

キャラクター原案
孤裡精

装丁
マイクロハウス
編集
キルタイムコミュニケーション
発行
株式会社キルタイムコミュニケーション

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7 ヨドコビル1F

●編集部 TEL.03-3551-6147 / FAX.03-3551-6146

●販売部 TEL.03-3555-3431 / FAX.03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、
ホームページ上に転載することを禁止します。
本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。
また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©SUKESABURO ©Jukou Tikuma 2023

<https://ktcom.jp/>

【本作品のご意見、ご感想をお待ちしております】

本作品のご意見、ご感想、読んでみたいお話、シチュエーションなど
どしどしお書きください！ 読者の皆様の声を参考にさせていただきたいと思います。
手紙・ハガキの場合は裏面に作品タイトルを明記の上、お寄せください。

○アンケートフォーム○

<https://ktcom.jp/goiken/>



○手紙・ハガキの宛先○

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7 ヨドコビル

(株)キルタイムコミュニケーション 二次元ドリームコミックス感想係



神代さくら

かみしろ

肛虐魔悦の学園

囚われた 美少女捜査官

筑摩十幸
挿絵◎孤裡精

リアルドリーム文庫

「絶対に……屈したり
なんかしないわ!」
親の仇が潜む学園へ
潜入した美少女捜査官を
魔薬調教の毘が待ち受ける!

原作
小説

書籍版・電子書籍版
好評発売中!